

としま 23. お年玉

「あと×日褒ると、楽しいお正月が来る。」子供の時は、お正月が来るのを指折り数えて待ったものだ。おいしい料理が食べられるし、楽しい遊びをすることができるからだ。だが一番うれしいのは、大人からお年玉がもらえることだ。おとうさん、おかあさんをはじめ親戚の人から「はい、お年玉だよ。」と言って渡されたときのうれしい気持ち、今でも忘れられない。自分の部屋でお年玉の袋をあけてみて、予想外にたくさんのお金が入っていると、飛び上がって喜んだものだ。そして、「あれを買おう。いや、これにしよう。」といろいろ思いをめぐらしたりした。

ところで、高度経済成長とともに、お年玉の金額もずいぶんふえた。今では5000円ぐらいが平均だそうで、いろいろな人からお年玉をもらい、一人で6、7万円もためる子供があるという。学校へ行くと、お年玉をいくくらもらったかが、子供達の間で関心の的になるらしい。子供に必要以上のお金を与えることは、決していいことではない。子供のうちから「世の中はお金がすべてである。」という考えを持つようになることは、健全な姿とは言えないから。それに子供は、お年玉をたくさんくれる人はいいい人で、あまりくれない人はケチであるという考えを持ちやすい。

お年玉をやる大人から見ると、親戚の手がたくさんいるといういろいろ悩む。年齢に応じてお年玉の金額を決めなければならぬし、他の親戚の人よりもあまりにも少ないと、子供に軽く見られるから。そういうわけで「少し多いかな」と思っても、子供にぶつうより多くお年玉をやってしまうのだ。頭のいい子供になると、そうした大人の心理状態を巧みに利用して、お年玉をたくさん獲得する。

紅封包

「只要再睡幾天，快樂的新年就會來到了。」小時候，我經常數著手指期待著新年的到來。因為過新年可以吃到好吃的菜，也可以玩愉快的遊戲。可是最高興的還是可以從大人手中接過紅封包了。由父親、母親以至親戚口中聽到：「給你紅封包。」然後接過它的時候的喜悅，我現在依然難忘。在自己的房間把紅封包打開看看，如果裡面的錢比自己預期中還要多的話，那就雀躍萬分。然後在心裡這個那個地盤算著：「買那個吧！不，還是這個好！」

如今，隨著經濟的高度發展，紅封包的金額亦隨之而增加了不少。現在的平均金額說是五千日元。小孩子從不同的人手中收到紅封包，據說有一個小孩子甚至收到了六、七萬日元！回到學校，收到多少紅封包，是孩子間熱門的話題。給孩子過多的錢，決不是件好事。如果從小時候起就覺得「金錢就是世間的一切」的話，就難說是心智健全了。而且小孩子很容易會覺得，紅包給得多的是好人，給得不多的就是吝嗇的人。

從派紅封包的成年人的角度去看，如果親戚的孩子很多，那是樁很令人頭疼的事。因為他得因應年齡去決定紅封包的金額，而且如果比其他親戚少給的話，就會讓小孩子看低。因此，即使心裡想：「是否多了一點呢？」，也仍會給孩子比一般要多的紅包。要是聰明的孩子，就會巧妙地利用成年人的這種心態，去獲得很多的紅包。

昔、昔、天の神様から、世界中の動物たちに『今度、動物の中から十二匹
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫
 んで、一年間ずつ、人間の世界を守らせることにした。先に着いたものから順
 ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒
 決めて行く。一月十二日に、わたしの所に集まれ。』というおふれが出ました
 ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲
 これを知った動物たちは、(自分こそ一番早く行って、順番の第一になるぞ。
 ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳

しかし、それよりももっと腹を立てたのは猫であります。鼠に教えられた十三日
猫は息せき切って、神様の所へ駆け付けました。見るとだれも来ておりません。
(しめた。このおれさまが第一番。)そう思って、門の中へ駆け込もうとすると
神様の御殿の門番にとがめられました。そして、
『順番をお決めになる日は昨日だった。順番は、鼠が一番、それから、牛、虎、
兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の順に決った。寝ぼけていないで、顔を洗
いなさい。』と言われ、初めて、猫は鼠にだまされたと知ったのです。そして、
『この憎い鼠のやつ。』と、にわかに牙を磨き、爪を研ぎ始め、それ以来、鼠さ
え見れば、飛び掛かるようになりました。また、つばを付けては、いつも顔を洗
うのは、神様の御殿の門番に、『寝ぼけていないで、よく顔を洗いなさい。』と
言われたからだそうなのです。

貓與鼠

很久、很久以前，天神對世界上的動物發出了以下的告示：「現在我決定，要在動物裡挑選 12 隻，逐年去守護人類的世界。次序由到達天庭的先後來決定。1 月 12 日來天庭集合！」知道了此事的動物都心想：「我一定要最早到達，成爲第一！」，並等待那天的到來。可是，貓兒平日一向善忘，不知不覺間把那日期給忘記了。剛好牠在路上碰見了小老鼠，心想，這回可真幸運！於是牠就問小老鼠：「老鼠、老鼠，你還記得在告示裡，我們集合的日期嗎？」小老鼠因爲想爭第一，所以對貓兒說：「是 1 月 13 日。」，把日期說遲了一天。「這樣，首先我不會輸給貓兒了！」牠一邊這麼想，一邊回家了。

小老鼠的家聽說是在牛棚的天花板裡。牠回到家時，牛已經準備出發。「阿牛、阿牛，你要出發了嗎？」牛說：「是啊，因爲我走得慢，如果今晚不出發的話，就趕不及了呀。」聽牛這麼說，小老鼠又想出了鬼主意，牠靜悄悄的躲進了牛的行李內。牛一點也沒察覺到，連夜趕路一直走到了天庭。牠一看，誰也還沒來到。心想：「啊，太好了！這麼我就是第一名了。」牠鬆了一口氣，正想走到天神的跟前時，小老鼠突然從行李中跳了出來大聲地報稱：「第一名是小老鼠！」。當時，牛是如何地失望和忿怒啊！

可是，更忿怒的要算是貓兒了。在老鼠告訴牠的 13 日，貓兒喘著氣跑到天庭前，牠環顧四周，誰也不見，心想「好了！本少爺是第一名了！」，牠正要跑進門裡去時，被天庭的門衛給攔住了。門衛說：「決定次序的日期是昨天。老鼠排名第一，然後依次是牛、虎、兔、龍、蛇、馬、羊、猴、雞、狗、豬。別睡糊塗了，洗把臉去！」這時，貓兒才知道被老鼠欺騙了。牠怒吼道：「老鼠這討厭的傢伙！」，並立刻開始把爪牙磨尖。從此以後，只要牠見到老鼠，就會撲上前去。另外，牠常用唾液洗臉，聽說是因爲牠曾被天的門衛責備說：「別睡糊塗了，洗把臉去！」的原因呢！

あいさつ

『どこへお出掛けですか』と聞かれたことがありますか。こう聞かれると、正直者のわたしは、しばらく考えて、さて何と答えたらいいかと戸惑います。その答えは千差万別です。『ちょっと友達に会いに銀座へ』『用事があって出掛けます』『天気がいいから散歩します』。本当にどれでもいいのです。でも一番多い答えは、『ちょっとそこまで』らしいのです。

先日ある外国人が、日本人はせんさく好きで、人のプライバシーは一向に構わず、会う度に『昨日は何をしましたか』と聞くし、おまけに外出の際、外で顔を合わせると、『どこへお出掛けですか』と聞かれて嫌になるという話をしてくれました。確かにやや現代っ子のわたしには、その友人が言うようにプライバシーにかかわる質問と取れないこともないと思います。なぜかというとその答え

に『ちょっとそこまで』が浮かばないと、一生懸命答えを探して、ついにプライバシーの一面を話してしまうこともあるからです。でも、よくよく考えてみると『どこへお出掛けですか』は質問じゃなくて、あいさつの一つなんですね。『どこへお出掛けですか』は『お元気ですか』と同じようなものだから、『元気ですよ』という代わりに『ちょっとそこまで』というだけなんです。都会はアパート

やマンションが増えて、隣り同志でもめったに顔を合わせる機会もないし、あいさつをする機会もないのです。このようなことを言うわたし自身も、隣の人にはめったに会わないので、たまに会った時、どんなあいさつをしたらいいか困って

しまいます。せいぜい口から出るのは、『お早うございます』『今日は』『今晩は』のどれかというワンパターンです。これでは幼稚園の園児と同じではないかなと、つくづく感じるのです。旅先で知り会った中年の紳士に、先日たまたま電車で会って話が弾み、あっという間に目的地に着いて、さて、何とあいさつをした

らいいかと考えあぐねていたなら、その紳士から『では、お元気で』とのおあいさつが出ました。そのあいさつに感じいったわたしは、とさのことに慌ててしまいいい『こちらこそ』などとドンチンカンでぼつが悪い返事をして自分でも嫌にな

とつ

ってしまいました。しみじみあいさつだけはきちんとできるようになりたいなど
 と、そのときは思ったものでした。替換、季節の変わり目ですから、どうかお
 風邪などお引きになりませんよう。では、お元気で。失礼します。

難しい語句

- ① ごう問かれると : 這樣被問時
- ② 戸惑う : 不知所措
- ③ 千差万別 : 各式各様
- ④ せんさく好き : 好尋根問底的人、好理人閒事的人
- ⑤ プライバシー : (privacy) 私生活、私隱
- ⑥ 一向に構わない : 全不理會 (毫不客氣地)
- ⑦ 会う度に : 每次見面時
- ⑧ おまけに : 還有、
- ⑨ 顔を合わせる : 碰面
- ⑩ 嫌 : 討厭
- ⑪ トンチンカン : 前言不搭後語, 顛三倒四
- ⑫ ぼろが悪い : 前言不搭後語、
- ⑬ ぞくぞくと : 想好久
- ⑭ とっさのこと : 瞬間

問候語

你是否曾經被問過：「要去哪裡？」被人這麼問，直腸子的我，就會琢磨一下，因不知如何回答而為難。答案有很多個。「去銀座見朋友。」「有要事出去一會。」「天氣好，去散散步。」等，真是怎麼答都行。可是，似乎人們通常會回答，「出去走走。」

前幾天，有個外國人跟我說，日本人很喜歡追根究底，從不尊重別人的隱私，每次見面都要問：「你昨天做甚麼啦？」，而且每當他外出時跟日本人遇上的話，日本人都要問：「要到哪裡去？」令他感到十分煩厭。的確，偏向現代人的我，有時候也會覺得就像那個外國朋友所說的，那是侵犯隱私的問題。因為如果我想不起可以回答：「出去走走。」的話，就會費盡心思地找個答案去回答，而不知不覺間就會透露了私事。

可是，仔細想想，「要到哪裡去？」，其實並不是一個問題，而只是一句問候語而已。「要到哪裡去」跟「你好嗎」一樣，只要說「出去走走」代替「我很好」就行了。在都市裡獨門獨戶的房子和公寓與日俱增，鄰居間甚少見面，就連互相問候的機會也沒有。但說是這麼說，因為我也是很少遇上鄰居，所以偶爾遇上時該怎麼問候才好呢，也感為難。說得出來的不外乎是「早晨」、「午安」、「晚安」等那幾句話。細想想，這豈不是和幼稚園學生一樣嗎？

前幾天旅途中，在火車上偶然認識了一位紳士，二人談得起勁，不一會就到了目的地。好了，該說些甚麼寒暄話呢？正想不出個名堂時，那位紳士對我說：「那麼，請多多保重」。對這句話心感佩服的我，慌慌張張地，竟說了些「我也是」之類的不著邊際的回應話，就連我自己也討厭起自己來了。當時我深深地感到，這問候語要夠好好地掌握才行。

「名位，現在是換季的時候，請小心別染上風寒。」那麼，請多多保重。我在此道別了。

「中国料理」は大きく分けると、四つに分けられます。つまり広東料理、北京料理、上海料理、そして四川料理です。香港では「本場の①中国料理が食べられる。」とされています。

香港の街には、どこへ行っても、ありとあらゆる②種類の中国料理店が並んでいます。その数を父に聞いてみると、三千軒ぐらいたと父は言っていました。しかし、道端③に店を出している屋台④まで数えると、数えきれない⑤ほどになります。

中国料理の特徴の一つは、食べられないような物でも料理して食べられるようにしてしまうことだと思います。例えば、鶏の足とか、牛の舌とか、豚⑥の内臓などです。これらの食べ物の名前を聞いただけでも身振いをするわたしにとって、中国人はすばらしい料理法を知っているんだ⑦な⑧と感心します。⑨

中国料理のもう一つの特徴としては料理全体がとても油っこい⑩ことだと思います。そのため⑪、最初中国料理はあまり好きではありませんでした。しかし、今では慣れてきたせいか⑫油をたっぷり⑬使わないと物足りない⑭と感じるようになりました。

香港では、前に挙げた四種類の料理が「本場の味」で食べられると思います。しかも⑮どの味も日本の中国料理と比べてみると、比べものにならない⑯ほどおいしいです。また、値段も安いです。そのため、観光やショッピング⑰が目的ではなく、中国料理を食べることを目的として香港に乗り込んでくる⑱観光客もあるほどです。

さて、わたしの大好きな広東料理についてももう少しお話ししましょう⑲。香港が広東に隣接しているせいか、広東料理は香港で一番よく口にする⑳料理です。わたしが香港に来て最初に食べた中国料理もやはり㉑広東料理でした。広東料理は種類がたくさんあります。それに㉒、とても甘い味付け㉓だと思います。父の話では広東料理はよく日本人の口に合うそうです。そして、飲茶も広東料理の一種で、その軽食のスタイル㉔だと言っていました。このようなことを考えてみると、広東料理は中国人はもちろん㉕日本人などの外国人にもとても親しまれている㉖のだなと感じました。

中国料理は種類が数えきれないほどあります。それで、わたしはこれから、今まで知らなかったような中国料理もたくさん食べて、日本料理や西洋料理などと違った中国料理の良さをもっと㉗知りたと思っています。

中國菜

如果將中國菜分大類，可以分爲四類，那就是廣東菜、北京菜、上海菜和四川菜。香港乃人稱「可以吃到地道的中國菜」的地方。

在香港街頭，不論走到哪裡，都林立著所有種類的中國菜館。我問父親那些菜館的數目有多少，他說約有 3000 間。

可是，如果把在路旁的攤子也計算在內的話，那麼就真是數之不盡了。

中國菜的其中一個特色，就是能把看似不能吃的東西烹調到可以吃。例如雞腳、牛舌、豬的內臟等等。只要聽到這些食物的名字便感到戰慄的我，真的很佩服中國人懂得如此了不起的烹調方法。

中國菜的另一個特色是，菜餚都很油膩。因此，我初嚐時不大喜歡。可是現在或許是習慣了，我變得如果油不夠的話，就覺得不夠滋味。

在香港，可以吃到上述四類菜的地道風味。不論哪種風味，與日本的中國菜相比，都好吃得不能與之相提並論。而且價錢也十分相宜。因此，有些遊客來香港並不是爲了觀光和購物，而是爲了一嚐中國菜而來的。

好了，就讓我再多說一點有關我喜愛的廣東菜吧。不知是否由於香港和廣東毗鄰的關係，在香港吃得最多的是廣東菜。我來到香港後第一次吃的中國菜就是廣東菜。廣東菜的種類很多，味道都十分甜。父親說，廣東菜很合日本人的口味。另外，飲茶也是一種小吃形式的廣東菜。這麼一想，別說中國人了，連日本人等等的外國人也熟悉廣東菜呢。

中國菜的種類數之不盡。我希望由現在起，能吃到很多至今仍未認識的菜式，並且知道更多與日本菜及外國菜不同的中國菜的優點。

大学生の就職試験

これから「大学生の就職試験」という 文章を朗読します。

大学生は4年生になると、今まで遊んでばかりいたものも、少しはまじめに将来のことを考えるようになる。卒業・就職というこ
とが、目の前にぶらさがっているからだ。

以前は、4年生になるとすぐ、有力な企業が優秀な学生を自分の会社に就職させる契約（これを「青田買い」という）をしたが、そうすると、その学生は4年生のほとんどの時期を、勉強もしな
いでだらだらとすごすことが多いので、他の学生や大学自身にも悪影響を及ぼすということから、最近では、10月1日以前にそうい
うことをしない約束が企業間に出き上がった。

しかし、表面上はそういうことになっているが、実際はかなり前から、いろいろな手段（知人関係、大学の先輩・後輩関係など）を使って、優秀な学生を自社に引っぱり、いち早く内定させている会社も多い。だから、10月から11月頃にかけて一応の入社試験をやめることはやるが、それは形式的なものになっている。こうい
うわけだから、自分が入りたい会社に知人がいないとか、大学の先輩
がいないというような学生が、その会社に入るのはなかなかむずか
しい。

更に、4年制の大学を出た女子学生の就職もかんたんではない。
一般的に言って、女子は、入社後、2、3年、やっと仕事ができる
ようになると、結婚のため退職してしまうケースが多いからだ。
日本では、結婚後もその仕事を続けるという女性は、まだまだ多く
ない。ふつうは会社の仕事を結婚するまでの腰かけのように考えて
いる。これでは企業の経営者としても、女子学生を採用すること
を敬遠せざるをえないであろう。

このように大学生の就職に関しては、いろいろ問題点があるが、
もちろんだの大学生にも平等に試験の機会を与え、学閥とか縁戚
関係によらず、公平にその能力を見て採用する会社も多くなって
きたことは事実である。それは、経済の国際化に対応するための必
然的な要請でもある。

これで朗読を終わります。ご清聴ありがとうございました。

大學生的就業考試

大學生一升上了四年級，即使一直只顧玩耍的學生，也會開始認真地考慮一下將來的事。因為畢業、就業問題就在眼前。

以前，成了四年生以後，有實力的企業就會馬上來枝與優秀的學生提早訂下僱傭合約。可是如此一來，那些學生就不再專注於學業，將餘下的大部分時間都虛渡而過了。這對其他學生以及大學本身都造成不良影響。因此，最近企業之間作出了協議，不再在 10 月 1 日之前進行招聘活動。

可是，表面上雖是如此，實際上在 10 月 1 日以前，很多企業已經使出各種手段，拉攏優秀的學生進自己的公司，一早內定了人選。所以，於 10 月至 11 月間的招聘考試雖說照樣舉行，但只不過是形式而已。

正因如此，如果自己想進的公司裡沒有認識的人或大學前輩在內工作的話，要進入該公司是相當困難的。

再者，四年制大學畢業的女學生要找工作也不容易。一般而言，女性進入公司工作 2、3 年後，終於可以應付工作時，卻因為結婚而要辭職的情況很多。在日本，婚後仍繼續工作的女性依然不多。她們一般都會視公司為婚前的暫時棲身之處。因此，作為企業的經營者，無可避免地會迴避聘用女學生。

就是如此，關於大學生的就業仍有各種問題，但當然，給予每個大學生平等的考試機會，不看學校的黨派或親屬關係，唯才是用的公司也愈來愈多。而那是隨經濟國際化的必要條件。

ある寂しい夜のこと

わたしは貧しい若者で、大変狭い小路の一つに住んでいます。といっても、光がさしてこないというようなことはありません。なにしろ、周りの屋根越しに、ずっと遠くの方まで見渡すことができるほど、高い所に住んでいるのですから。この町に来た、最初のころは、ひどく狭苦しい気がして、寂しい思いをしたものです。それもそのはず、森や緑の丘の代わりに、地平線に見えるものといえば、ただ灰色の煙突ばかりなのですからね。おまけに、ここには友達は一人もいませんし、あいさつの声を掛けてくれるような顔なじみもなかったのです。

ある晩のこと、わたしは大変悲しい気持で、窓のそばに立っていました。ふと、わたしは窓を開けて、外を眺めました。ああ、その時、わたしは、どんなに喜んだか知れません！そこには、わたしのよく知っている顔が、丸い、懐かしい顔が、遠い故郷からの、一番親しい友達の顔が、見えたのです。それは月でした。懐かしい、昔のままの月だったのです。あの故郷の、沼地のそばに生えている、柳の木の間から、わたしを見落ろした時と、少しも変わらない月だったのです。わたしは、自分の手にキスをして、月に向かって投げてやりました。すると、月はまっすぐわたしの部屋の中にさし込んできて、これから毎晩、ちゃんとわたしの所をのぞき込もうと、約束してくれました。その夜から、月は、ちゃんとこの約束を守ってくれています。ただ残念なのは、月がわたしの所に、ほんのわずかの間しかいられない、ということです。でも、来る度ごとに、その前の晩か、その晩に見たことを、あれこれと話してくれるのでした。

『さあ、わたしの話すことを、絵におかきなさい』と月は、初めて訪ねてきた晩に、言いました。『そうすれば、きっと、とてもきれいな絵本ができますよ』そこでわたしは、幾晩も幾晩も、言われた通りにやってみました。とてもきれいな絵がかけました。わたしはこれからもこのように続けて絵をかいていくつもりです。

一個寂寞的晚上

我是一個貧窮的青年，住在一條非常狹窄的小路上的房子裡。話雖如此，也不是一點光線也沒有的地方。總之，我是住在一個比周遭的房子要高，能夠舉目眺望遠方的高樓。剛來到這個市鎮的時候，我覺得這裡十分狹小，令人感到孤單。那是當然的，在地平線上我所看見的並不是森林與綠油油的山丘，取而代之的只有一枝枝灰色的煙囪而已。不單如此，在這裡我既沒有一個朋友，也沒有和我打招呼的熟悉臉孔。

有一天晚上，我很傷感地站在窗前，不經意地打開窗向外眺望。呀，那時候，我是如何地高興啊！在那兒，我看到一張熟悉的臉：圓圓的、令人懷念、在遠方的故鄉我最要好的朋友的臉——月亮！那個令人懷念、和從前一樣的月亮，那個在故鄉時，曾經從沼澤地旁的柳樹間俯瞰我的月亮。我在手上印了個吻，然後把它給了月亮。這時，月光突然照進了我的房間，並答應我從此以後每個晚上，她都會來探望我的房間。從那天晚上起，月亮都緊守著她的承諾。可惜的是，她只能在我房間裡逗留片刻。可是，她每次來的時候，都會告訴我各種各樣她在前一個晚上、或者是當天晚上見到的事。「好吧，你就將我的話畫下來吧。」她在探訪我的第一個晚上是如此跟我說的。「這樣的話，一定可以做到一本十分漂亮的畫冊。」此後的每個晚上，我都不懈地照著她的話去做。因此，我的畫都畫得很漂亮。我打算從今以後，就這樣一直畫下去。